

# 諮問や答申のあり方などを議論 第2回 上越市 地域協議会検証会議

10月22日、第2回上越市地域協議会検証会議(座長は岐阜大学山崎仁朗准教授、他に3委員で構成)が行われました。地域協議会の検証にかかわる多くの課題がある中で、①地域活動支援事業のあり方、②諮問・答申のあり方、③委員の定数、任期、報酬など、④公募選制の下でどう裾野を広げていくか、の4点に絞って3時間近く活発な議論が展開されました。

このうち、地域活動支援事業については、改善策をめぐって様々な議論が行われました。前々日に行われた各地域協議会長たちとの意見交換会では、「金額が多すぎる」「足りない」とする意見や、「他区への流用や残額の繰越を可能にすべきだ」などの意見がありました。この検証会議では、「500万円の基礎部分を厚くし、人口割りの部分を薄くしたらどうか」「3次募集までは必要ないのでは」「事業の執行時期との関連で流用は難しい」「柔軟に使える仕組みとするために繰り返しがあってもいいのではないか」「市が本来やるべき仕事を、この事業を使ってやるのは

いかがなものか」「地域のソフト面を活性化させるという本来の趣旨にそった活用を」などの声が出されました。諮問・答申のあり方については、この間、(仮称)厚生産業会館基本構想案や名立区地域協議会が提出した特養ホームについての意見書をめぐり、いろいろなところで議論されてきた経過があります。この問題では、「行政と地域協議会がお互いに話し合っても2者間で解決できないときには第3者機関が入ることも必要ではないか」「(もめたとき)議会がどうかかわるかという問題もある」など、たくさん意見が出されました。また、市の



全域に影響する問題については、全ての地域協議会が自主審議事項としてとりあげることに異論はありませんでした。全区的な地域協議会に諮問することについては、「条例の趣旨からすると区域限定はやむを得ない」「自主審議で意見書を出せばいいのではな

いかに影響する問題については、全ての地域協議会が自主審議事項としてとりあげることに異論はありませんでした。全区的な地域協議会に諮問することについては、「条例の趣旨からすると区域限定はやむを得ない」「自主審議で意見書を出せばいいのではな

## 上野議員、津南町でドイツの脱原発の現状を学ぶ

上野議員は、10月23～24日、日本共産党頸城支部に同行し、ドイツでの脱原発、廃炉への取り組みについて、津南町の桑原かよ子さんから学ぶ研修に参加しました。桑原さんは、このほどドイツやデンマークの脱原発・再生可能エネルギーの視察団の一員として参加したものです。

桑原さんの報告は、スライドを使ってたいへんわかりやすく興味をひくものでした。ドイツの首相はメルケルさんという女性です。メルケル首相はもともと保守系の政治家で、原発推進政党の出身です。しかし、福島第一原発事故をきっかけに原発からの撤退を決断し、廃炉への取り組みを行っています。同時に、地域・住民主体による再生可能エネルギーへの転換を積極的に進めています。

桑原さんは、人口2千人ほどの小さな町が、原発を拒否し、住民の手による自然エネルギーへの積極的な取り組みを行ってきた歴史や現状を説明しま

した。日本でも、福島第一原発事故以来、再生可能エネルギーへの取り組みが比較的加速しています。しかし、安倍政権の原発推進の姿勢の下、大企業に都合のよいエネルギー政策が進められていて、再生可能エネルギー推進の取り組みは住民本位にはなっていないのが現状です。こうした状況下でのドイツでの取り組みの紹介は、たいへん勉強になりました。

夕方からは交流会と頸城支部の慰労会でした。津南町の「花とほたる湯のさと雪国」という宿は本当に素敵な処です。ごちそうが一枚の和紙の上にさりげなく用意されていました。見ると、一枚一枚が違ってきます。何と「楽々しての」と書いてあり、たくさんの押し花が張り付けてあります。お聞きすると、女将さんが心をこめて作っているそうです。お料理も手作りの郷土料理がたくさん用意されていました。

翌日は津南町を案内してもらいました。河岸段丘は特に有名です。農産物の直売所なども回りました。



桑原さんからドイツでの視察内容を学びました

信濃川沿いの河岸段丘



### 議会報告会のご案内

11月9日(土)午後7時～8時半  
板倉区 コミュニティプラザ

### 日本共産党上越市議員団ニュース

No. 384 2013年11月3日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)